Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2026-11-27

自由記述から見る神戸大学の学生イメージ（二〇〇六年度 社会調査演習報告 ： 「篠原地区住民の神戸大学・神戸大学の学生イメージ」に関する調査）

梅村，麦生
浦山，恵美
岸本，知子

(Citation)
社会学雑誌,25:120-122

(Issue Date)
2008-03-31

(Resource Type)
departmental bulletin paper

(Version)
Version of Record

(JaLCDOI)
https://doi.org/10.24546/81011088

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/81011088

KOBE UNIVERSITY

他と比較して二〇ポイント近くも高くなっていることが確認できる。つまり、「地域への愛着を強く感じること」と「神戸大学の学生に対するいいイメージ」は正の関連があると言うことができるのである。

これらのことから、六〇歳以上の女性で特に神戸大学の学生にいいイメージをもっている人が多い理由は、第一にこの年齢層の女性では特に地域に強い愛着を持っている人が多いということ、そして第二に地域に強い愛着を持っている人は神戸大学の学生にいいイメージをもつ傾向も強くなるということ、この二つの関係によるためであると推測される。しかし地域への強い愛着がなぜ神戸大学の学生に対するイメージを高めるのかという点が明確になっていない。この点は今後の課題となるだろう。

1―3　自由記述から見る神戸大学の学生イメージ

梅村麦生
浦山恵美
岸本知子

今回の調査では、「神戸大学の学生に対して、いい印象を持っていますか」ならびに「神戸大学の学生に対して、悪い印象を持っていますか」という二つの質問項目の後ろに、「また、その理由があれば下にお書きください」という自由解答欄を設けていた。回答者一四〇名のうち、五九名の方が、この自由回答欄と欄外に何らかのコメントを残して下さった。そこで本節では、これらの自由解答欄等の記述を通して、数字ではわからない地域住民の意識をみるため、コメントの内容について見ていくこととする。

悪い印象について

まず悪い印象をあげていく。これは質問紙回収の回収以前から予期されていたことであるが、通学マナー、とりわけ単車のマナーの悪さに言及しているものが実に多い。

（神戸大学の学生に対して「悪い印象も持っている」、と答えた上で）

・通学中のバイクのマナーが悪い。（性別年齢未回答）
・子供達の集団登校にも使用しています。登山口の路道をバイクで抜けるのはやめて下さい!!（二九歳男性）

以上に見られるように、二〇代から七〇代の方まで、計一三名の方が単車のマナーの悪さについてコメントを残している。

また、通学以外にも次のようなコメントがあった。

（神戸大学の学生に対して「悪い印象を持っている」、と答えた上で）

・大学生の間だけしか住まないのだからその後は関係ない、という感じで、ゴミ出しのルールは一切無視。神戸大学だけではないかも。特に夏の夜などは人が集まっていてやかましい。バイクも多いし……。こまってます。（五七歳女性）

（神戸大学の学生の印象は「まあいいほうである」、と答えた上で）

・結局は人それぞれですが、悪い印象はありません。ただ、下宿（ワンルーム）に友人が大勢いらっしゃるのはいいのですが、夜おそく、大体一〇時以降はお静かに願いたいです。夜ともなれば近所は静かです。たまにおそくまでさわいでいるときがあり、常識で考えてほしいと思うことがあります。行動を客観的に見るのも必要ではないでしょうか。（六八歳女性）

神戸大学の学生に限らず、あるいは大学生に限らず、単身者が多く住むマンションでの問題は、今日どこにでも存在する。そうした問題においては、個々人の節度が大きな要因ではあるが、それに限らず、住民の間での意思疎通の少なさが原因のひとつになっているものもあると思われる。

本人達はあくまで楽しくやっているだけであって、別に悪気があってやっているのではない。悪気がなければなんでもいいというのではないが、その際には誰かが声を挙げなければ、事態の解決にはつながらない。住民間のつながりが希薄になっているがために、このような問題が生じているのかもしれない。

通学マナーについても同じことが言える。たんに学生のマナーが悪いと言うよりは、近所の住民の方と学生との間で問題が共有されていないからこそ起こることなのではないだろうか。学生は地域と疎遠であっても、問題なく生活できるのだから、むしろ関わりは最小限でいい、という事態になってはいないだろうか。

良い印象について

何らかのコメントがあった五九通のうち、おもに悪い印象について書いてあるのは一八通で、あとの四一通はおおむね好意的なものであった。

（神戸大学の学生に対して「とてもいい印象を持っている」と答えた上で）

・接した方は皆一緒懸命頑張っています。（五八歳女性）

（神戸大学の学生に対して「とてもいい印象を持っている」と答えた上で）

・我が家に来る学生さん、卒業生も入れて一〇数人いますが、みんなとてもよい方。礼儀正しい。（五一歳女性）

以上は、主に直接の関わりから理由を述べたものである。

（神戸大学の学生に対して「とてもいい印象をもっている」、と答えた上で）

・真面目そう。質実そう。（八三歳女性）
（神戸大学の学生の印象は「まあいいほうである」、と答えた上で）
・まじめそうな印象。（三三歳男性）
「礼儀正しい」という言葉と並んで、「まじめである」というコメントがあった。「まじめ」は直に接しての印象もさることながら、イメージの産物であることも多い。それを示すものとして、以下のものがあった。
（神戸大学の学生の印象は「まあいいほうである」、と答えた上で）
・成績が優秀な学生が多いと思うから。（七二歳男性）
・兵庫県下で一番の大学の学生群。（二四歳男性）
ここで指摘できるのは、この「まじめ」というイメージは、入試難度や偏差値に由来するものかもしれないということである。

以上をまとめよう。まず、篠原地区の住民が神戸大学の学生に対して悪い印象を抱くに際しては、通学時のマナーや普段の生活のマナーの悪さが大きく影響を与えていることが分かった。また、住民と学生間の意思疎通の希薄さも原因のひとつとして考えられる。良い印象に関しては、学生との直接の関わりからのものが見られる一方で、「まじめそう」あるいは「成績がよいから」といった、一般的なイメージがそのままあらわれたものも多くあるということが確認できた。

2 「ポートアイランド医療産業都市」に関する調査

2―1 神戸医療産業都市とは何か

繁内優志
松本裕樹

神戸医療産業都市の目的とは

ポートアイランド第二期を中心に、高度医療技術の研究・開発拠点を整備し、医療関連産業の集積を図ることで、神戸を活性化することを目的としている。具体的には、高度な臨床研究機能や医療提供機能を有する次世代医療システムの構築を目指し、そこから新たな医療産業・医療サービスを生み出していこうということを目的とし、また医療技術や医療関連産業の集積形成によって、最先端の医療サービスの提供による市民福祉の向上、および医療技術を通じたアジア諸国等国際社会への貢献を目指している。そして、阪神・淡路大震災で大きな被害を被った神戸経済の復興を図るという意味で、市経済全体の復興と雇用の確保も大きな目的の一つである。